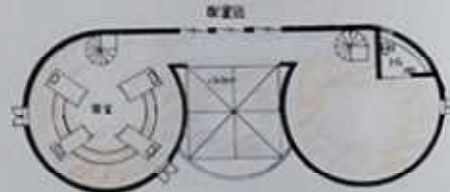


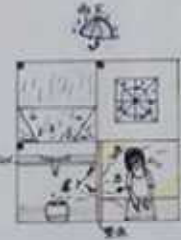
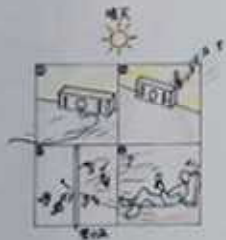
Fine No Music House



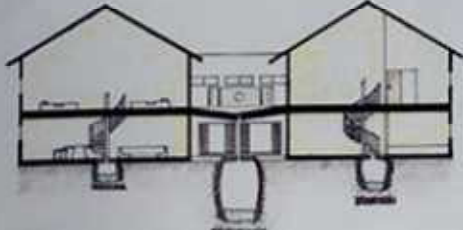
ここでは、音色が聞こえるように設計する。
 Fine No Musicという音楽をテーマとして、
 Fine No Musicで聞けるような音に
 聞こえる音色の2つの楽器を組み立てる。
 2つ、Fine No Musicという楽器を作る。
 組み立てる楽器で音を鳴らすように設計する。
 水音のエアポートハーブによって、音楽の音は
 空間を流れて、水音の音に響いて、
 人に伝わるようにする。



それぞれの空間の色



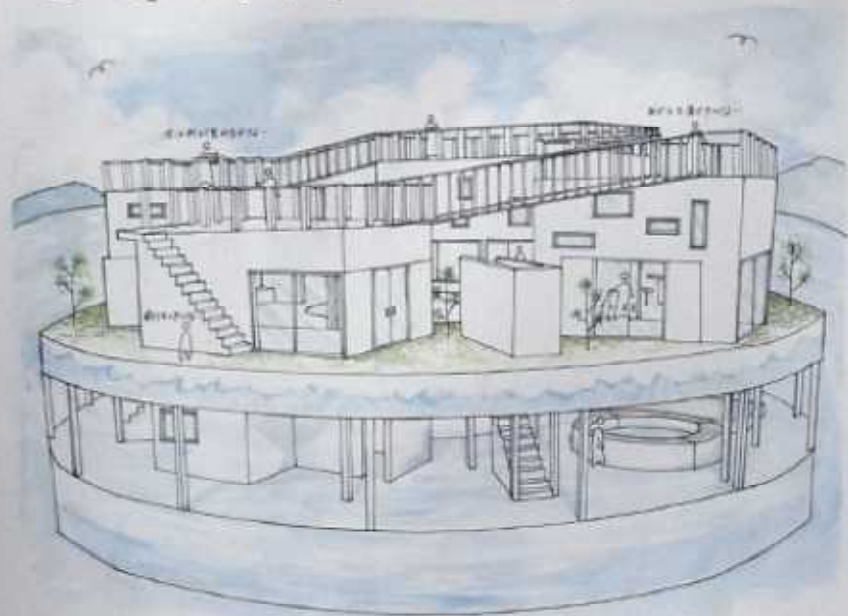
エアポートハーブ



水音の音は、空間を流れて、
 水音の音に響いて、
 人に伝わるようにする。



地域と共栄する環



豊かな自然・文化・気候・景観にふさわしい環境を創出。地域の存在する資源をこの中核に据え多くの人が集まる場とした。

一方で、都市部ならではの課題である高齢化と人口減少の影響が顕著であった。この中核に据えられた施設が減少し多くの人が集まる場となり、地域が活性化し地域への関心が高まることにつながる。また、地域が活性化することで、高齢者も集まる場となり、地域が活性化し地域への関心が高まることにつながる。

この建築によって、この地域ならではの魅力を感じ、地域を活性化させることができる。



01 地域・資源の現状を把握



資源の豊富さは他県と比較して高い

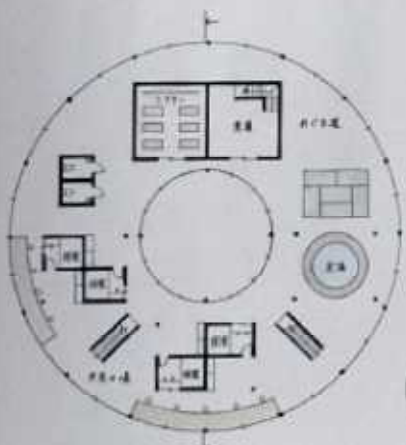
02 集客 現状を把握



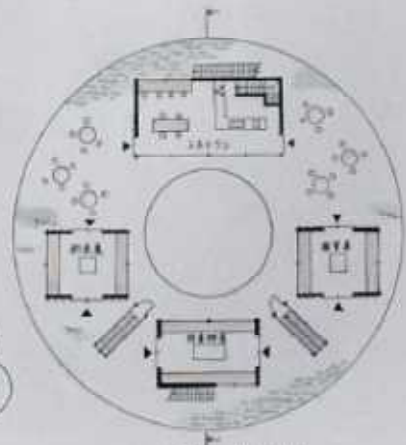
03 持続可能な未来



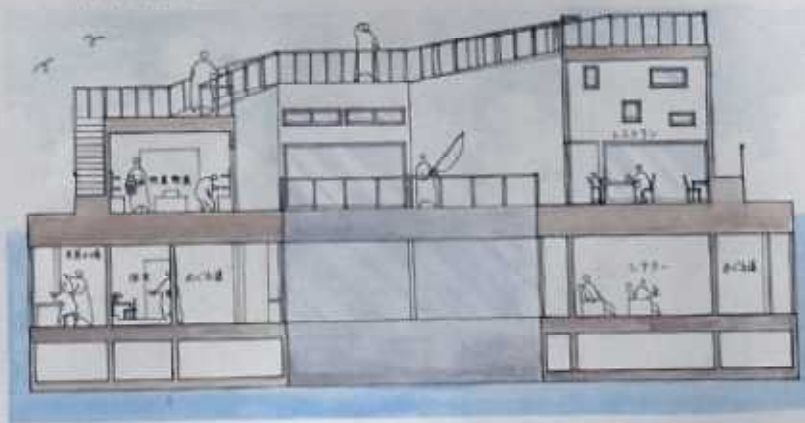
1-4の行動で地域を活性化



地上平面図 scale 1:200



地上平面図 scale 1:200



断面図 scale 1:100



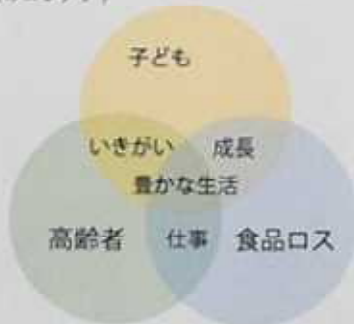
～お弁当で生活を豊かに～

1. コンセプト

家とは、「たよる、よる、よりどころ、つる」という意味であり地域の方々の拠点となり、心や生活のよりどころである。

近年個人との交流が減少したことにより、子供の「孤食」の増加や高齢者の食きがいとなる場が減っている。また地域外の野菜や果物の活用にも取り組んだ。そこで交流のできる場と食品ロスの削減が必要だと考えた。豊かな生活の中心のよりどころと食品ロス低下を目指す場を提案する。

地域のエレメント



2. 敷地概要

茨城県古河市では、超高齢化社会に伴い空き家が増加している。数年前に父がリフォームし、私の祖母が一人生らしをしていたが、高齢に入ったことで空き家状態となっている。

「豊かな生活」に向けて、地域の活性化を図るため、お弁当として企画を行うこととした。

空き家の数は、全国の住宅で13.5%を占めている。「地域の活性」「空き家」をキーワードに産業廃棄物を減らしていく。

3. 現地調査

1. 人口減少 2. 規格外品の多さ 3. 農作物が豊富

<p>H22年～H24年にかけて人口は減少しているが高齢者は21.9%と増加している。若い世代の人口減少を止めるためにも古河市の良さを伝えていく必要がある。</p>	<p>農林水産物の消費による在庫量の削減は20%が規格外品となっている。古河市ではサツマイモなどが1トン販売されている。</p>	<p>にんじん、ニガウリ、サニーレタス、キュウリ、キャベツ、白菜、サツマイモなど多くの特産品がある。</p>
--	--	--

茨城県古河市市役所の方にお話を聞いたところ、高齢化が進み昔からの商店が閉店し、遠方への買い物に難儀している方が多いことが分かった。共働きの方も多く、子供だけで留守番をすることが多い。その為、安全に保障できる場所が少ないと考え、子ども食堂をつくることで、子どもの安全とお弁当販売で商店の役割が果たすことができるのではないかと考えた。



4. ターゲット



5. システム

営業時間
お弁当：9:30～15:00
子ども食堂：15:30～20:30

働き方の例



お弁当配達！



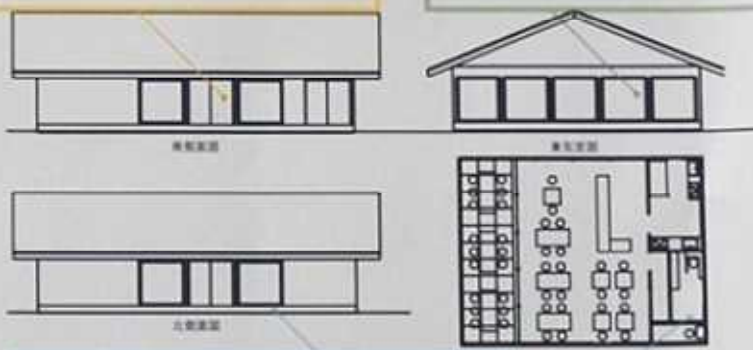
高齢者が早朝力のよりお決めの朝の準備とお弁当作りをする。児童の下校時刻に合わせて15:30よりお弁当屋さんから子ども食堂としてソフトチェンジできる。近くの保育園や学校と連携し、お弁当を安価で提供することで、共働きに出る世帯の負担を減らすことに繋がる。

お弁当と子ども食堂が同時に切り替わることで、右の図にあるようなライフスタイルや能力に合わせて働くことができる。

北面と南面の戸の位置を対角線に持ってくることで通風の単純化を図り出入りをわかりやすくした。



大きな開口部は、中の様子がよくわかるようになっている。



バリアフリーな設計を重視して、外観ではスロープを設置、階段の段上げを150mm、内観では多目的トイレを採用した。

Date
敷地面積：125㎡
建築面積：106㎡
| 環境と木造建築



お弁当では、イートインスペースや和室を子ども食堂として利用することができ、どちらでも食事をとれるように開口部を多く設け開放的な造りにした。また、壁をなくすることで広々とした空間になっている。さらに、イートインスペースは椅子に座る形態だけではなく、小上がりを設け、高齢者の方は親しみやすく子供は端に座ることができる。

明るく開放的なイメージと、多くの採光を取り入れるために南面北面の窓を大きくとり、中央のイートインと和室との壁仕切りをなくした。室内空間には温かみのある木材を使用し、イメージカラーには、緑と白を基調にすることで、リラックス効果や清潔感を得られるようにした。床のレイアウトを誰でも簡単に変更できるように軽量のテーブル・スツールになっている。

6. お弁当について。

にんじん、にがうり、サニーレタスなどの特産品の規格外品を使い、古河市の味を知るとともに食品ロス削減を目指す。高齢者や子供がコミュニケーションをとりながら食事ができるようにおにぎりを一口で食べられる大きさにした。

